

# 立命館大学人文科学研究所研究叢書

## 1 輯『社会主義的所有と管理』 小野一郎・篠原三郎編 有斐閣 1976年



- 「共産主義的所有と管理・組織」 角谷登志雄  
「管理技術の継承論と史的唯物論」 篠原三郎  
「社会主義的「所有論」から「管理論」へ」 芦田文夫  
「ソ連社会主義の発展段階規定の系譜と「発達した社会主義社会」段階規定」 小野一郎  
「社会的所有と社会主義企業管理制度」 井手啓二  
「現代フランスにおける自主管理論とブルードン」 津島陽子

## 2 輯『マルクス主義経営学論争—その戦後史と課題—』 角谷登志雄編 有斐閣 1977年



- 序章「マルクス主義経営学の生成・発展と論争」 角谷登志雄  
第1章「個別資本運動説における若干の問題」 渡辺峻  
第2章「上部構造説の立場と方法」 山下高之  
第3章「労務管理の対象規定」 田中照純  
第4章「管理の二重性論争とその問題点」 篠原三郎  
第5章「管理と技術」 慈道裕治  
第6章「公企業研究の諸課題」 玉村博巳  
第7章「経営史研究の方法」 橋本輝彦  
結章「マルクス主義経営学の学派と課題」 角谷登志雄

## 3 輯『労働問題の今日的課題』 坂寄俊雄・塩田庄兵衛編 有斐閣 1979年



- 第一章「戦後労働運動の三〇年」 塩田庄兵衛  
 第二章「階級構成の分析目的」 大橋隆憲  
 第三章「階級構成分析の問題点」 川口清史  
 第四章「雇用・失業問題の展開過程」 戸木田嘉久  
 第五章「雇用対策法体制とその破綻」 三吉正巳  
 第六章「配転・出向をめぐる判例の動向と課題」 窪田隼人  
 第七章「公務労働論の史的展開と課題」 有田光雄  
 第八章「婦人労働と婦人労働論」 宝光井顕雅  
 第九章「「高度成長」過程における建設労働市場構造の変化」 中川勝雄  
 第一〇章「最低賃金制と労働運動」 細迫朝夫  
 第一一章「社会保障制度の展開と運動」 坂寄俊雄

## 4 輯『日本近代国家と民衆運動』 藤井松一・岩井忠熊・後藤靖編 有斐閣 1980年



- 「華士族制度の展開」 岩井忠熊  
 「自由民権運動と警察活動」 後藤靖  
 「明治期地方論の一考察」 河西英通  
 「国会開設期における地租・地価問題をめぐる動向」 藤井松一  
 「郡制廃止に関する一立法資料」 山中永之佑  
 「一九二〇年代後半期の融和政策・融和運動」 中村福治  
 「一地方におけるファシズム運動」 佐々木敏二  
 「昭和前期の日本主義哲学」 船山信一

## 5 輯 『1930年代世界の文学』 永原誠編 有斐閣 1982年



## 概観部

「1930年代世界の文学」	永原誠
「イギリス文学」	久津木俊樹
「フランス文学」	川上勉
「ドイツ文学」	辻善夫・長橋美美子
「アメリカ文学」	永原誠
「ソビエト文学」	奥村昶三
「中国文学」	寛文夫
「日本文学」	江頭肇

## 各論部

「オーデンの転向あるいは後退をめぐって」	風呂本武敏
「オーウェルと30年代」	古我正和
「『アントワーン・ブロワイエ』あるいは認識の手段としての文学」	川上勉
「マルローとアラゴン」	中村泰行
「プレヒト『第三帝国の恐怖と貧困』」	辻善夫
「プロレタリア作家にとっての1930年代」	長橋美美子
「ジョン・ドス・パソス」	広瀬英一
「リチャード・ライト」	田中礼
「生きた人間の描出」	奥村昶三
「ミハイル・コリツォフとスペイン戦争」	小野理子
「『満州』が生み出した文学」	岡田英樹

## 6 輯『消費者金融の比較法的研究』 塩田親文・長尾治助編 有斐閣 1984年



- 「西ドイツにおける消費者信用の現状と問題点」 山本隆司  
「フランスにおける消費信用法制の変容」 島田和夫  
「アメリカにおける消費者信用の法規制」 横田貫一  
「アメリカ法における市場の保護と行政的保護の衝突」 横田貫一  
「イギリスにおける消費者金融法制」 長尾治助  
「非良心性の法理による高利の規制」 長尾治助  
「消費者債務と裁判手続」 佐上善和

## 7 輯『ロマン主義の比較研究』 西川長夫・松宮秀治・末川清編 有斐閣 1989年



- 第1章「ロマン主義を考える三つの視点」 西川長夫  
第2章「フランス・ロマン主義における音楽と言語」 丹治恒次郎  
第3章「憂鬱の解剖」 富永茂樹  
第4章「ロマン主義とミュージアム」 松宮秀治  
第5章「ドイツ・ロマン派の文学における自然科学と科学技術」 池田浩士  
第6章「限られた現実生き書くこと」 石井扶桑雄  
第7章「ルソーの弟子ボズウェル」 中原章雄  
第8章「ウィリアム・ブレイクのロマン主義」 小林恵子  
第9章「ギリシア発見」 神保菘  
第10章「一八四〇年代ドイツの急進民主主義の思想像」 末川清  
第11章「ラムネにおけるロマン主義と政治」 中谷猛

## 8 輯 『関西学研都市の研究』 杉野 聡明編 有斐閣 1993年



- 序章「本書の課題と方法」 杉野 聡明
- 第1章「関西学研都市構想の歴史的背景」 杉野 聡明
- 第2章「関西学研都市建設における行政の役割と問題点」 福井英雄
- 第3章「関西学研都市と近畿リサーチコンプレックス」 仲上健一
- 第4章「関西学研都市の建設計画過程と土地利用詳細計画」 安本典夫
- 第5章「関西学研都市の産業基盤と研究開発」 慈道裕治
- 第6章「関西学研都市と文化基盤の整備に関する諸問題」 泉俊弘
- 第7章「関西学研都市における「国際化」基盤」 岩田勝雄
- 第8章「関西学研都市の交通体系整備に関する諸問題」 土居靖範
- 第9章「関西学研都市における住宅・環境基盤」 角田修一
- 第10章「関西学研都市の医療基盤」 松川周二
- 第11章「関西学研都市におけるスポーツの現状と将来像」 草深直臣
- 第12章「関西学研都市の建設・整備と財政基盤」 浅田和史

## 9 輯 『消費者法の比較法的研究』

長尾治助・山根裕子・堀田牧太郎・竹濱修・鹿野菜穂子・  
出口雅久編 有斐閣 1997年



- PART 1 国連消費者保護ガイドライン
- 第1章「国連ガイドラインと法のハーモナイゼーション」 長尾治助
- 第2章「国連消費者保護ガイドライン」  
デーヴィッド・ハーランド  
(増田栄作訳)
- 第3章「消費者保護の国際的動向」  
アンソニー・スミス  
(若林三奈訳)
- 第4章「アジアにおける消費者保護法の発展」  
平塚秀衛
- Appendix 1 「国際連合消費者保護ガイドライン」  
増田栄作・坂東俊矢共訳
- Appendix 2 「国際連合消費者保護ガイドラインの見直しについての決議」 平塚秀衛訳
- PART 2 消費者政策と立法
- 第5章「競争法と消費者利益との関係について」  
山根裕子
- 第6章「約款による取引と透明性の原則」  
鹿野菜穂子
- 第7章「テレコムと消費者保護」 堀田牧太郎
- 第8章「プリペイド決済システムと消費者保護」  
山下真弘
- PART 3 金融サービスと消費者保護
- 第9章「金融サービス法と消費者保護(上)」  
長尾治助
- 第10章「金融サービス法と消費者保護(下)」  
長尾治助
- 第11章「消費者信用法と分配的正義」  
イアン・ラムゼイ  
(平塚秀衛訳)
- 第12章「消費者信用法制の日独比較」 谷本圭子
- 第13章「規制緩和後のドイツ保険事業における消費者保護」  
エルンスト・クリングミュラー  
(竹濱修訳)
- PART 4 ACCESS TO JUSTICE
- 第14章「EUにおける消費者団体の提訴権と情報アクセス権」  
山根裕子
- 第15章「英国保険オンブズマン制度とその現状」  
竹濱修
- 第16章「英国の少額事件手続と司法へのアクセス」  
水野五郎
- 第17章「日本の新民事訴訟法と少額訴訟手続」  
水野五郎

## 10輯 『「貧困の文化」再考』 江口信清編 有斐閣 1998年



- 序章 「「貧困の文化」再考」 江口信清  
 第1章 「中産階層の『競争エートス』の未成熟と貧困層の拡大」 山本勇次  
 第2章 「貧困からの脱出装置としての世捨ての制度」 村瀬智  
 第3章 「クアラルンプルの生きられたスクォーター・カンボン」 藤巻正己  
 第4章 「「貧困」の語り」 北森絵里  
 第5章 「貧困への適応」 江口信清  
 第6章 「長崎県高島の炭鉱離職者の「貧困のエートス」と、その変容」 山本勇次

## 11輯 『高齢者の生活と法』 大河純夫・二宮周平・鹿野菜穂子編 有斐閣 1999年



- 「高齢者のからだと健康づくり」 三浦正行  
 「日本国憲法における「個人の尊厳」原理」 市川正人  
 「高齢者の取引被害と意思能力論」 鹿野菜穂子  
 「高齢者の自動車事故による賠償責任」 和田真一  
 「公的年金の逸失利益性」 若林三奈  
 「高齢者の事実婚」 二宮周平  
 「ドイツ非訟事件手続法における収容事件の審理」 佐上善和  
 「高齢者雇用と定年制」 蛭原典子  
 「企業組織としての高齢者協同組合に関する一考察」 道野真弘  
 「高齢社会での住宅のあり方と建築規制」 安本典夫

## 12輯『国境を越える消費者法—Consumer Law in The Global Society—』

鹿野菜穂子・谷本圭子編 日本評論社 2000年



## 第1部 ネットワーク社会と消費者

- 「電子商取引と消費者」 齋藤雅弘  
「名誉棄損・詐欺的取引とプロバイダーの民事責任」 松本克美  
「消費者の信用情報に対する人格権」 和田真一  
「米国ストアード・ヴァリュー・カードと消費者保護」 山下真弘  
「EU通信取引指令とドイツでの対応」 谷本圭子  
「グローバル化と基準・規格、検査制度の課題」 米丸恒治

## 第2部 消費者法をめぐる現代の潮流

- 「不正条項コントロールをめぐるイギリス法の展開」 鹿野菜穂子  
「消費者契約における不正条項に関するEC指令」 イブニルイ・サージュ (原田智枝訳)  
「損害保険契約者の保護」 長尾治助  
「比較法としての消費者信用法」 板東俊矢  
「オーストラリアの消費者信用法典」 グレアム・ウィッフエン (堀田牧太郎訳)  
「ニュージーランドにおける消費者法の今日の発展」 シンシア・ホー (石橋秀起訳)  
「香港における少額請求救済メカニズム」 アブドゥル・マジド (永井美佐子訳)



13輯『生活世界としての「スラム」—外部者の言説・住民の肉声—』

藤巻正己編 古今書院 2001年



- 1 「ネガティブな他者の創出」 江口信清
- 2 「リオデジャネイロのスラム住民の日常的実践」 北森絵里
- 3 「クアラルンプルの都市美化政策とスクォッター」 藤巻正己
- 4 「都市の貧困カンボン・ジャカルタの下町」 澤滋久
- 5 「タイ農村の社会経済変動と農民の都市生活  
適応」 竹内隆夫
- 6 「ネパールの民主化運動と都市スラムの形成」 山本勇次
- 7 「隠ぺいされた地名」 村瀬智
- 8 「ケーブタウンの掘立て小屋の暮らし」 池谷和信
- 9 「鴨川スクォッター地区の住環境整備と地域支援  
活動」 リム・ボン

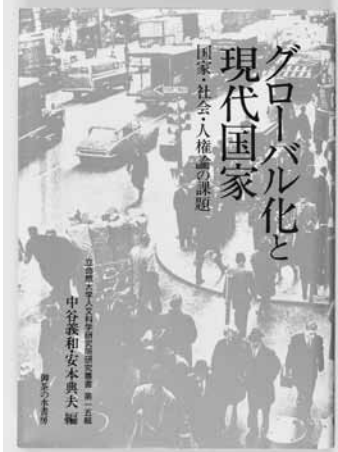
14輯『フランスの人権保障—制度と理論—』 山下健次・中村義孝・北村和生編  
法律文化社 2001年



- 「フランスにおける人権保障の展開」 山下健次  
「ブルジョワ革命と民主主義」 中村義孝  
「フランス人権宣言について何を考えるのか」 石崎学  
「フランスにおける議会中心主義と法律の合憲性  
統制」 清田雄治  
「フランスにおける憲法裁判と民主主義」 山元一  
「憲法裁判と政治部門・裁判機関による人権保障」 蛭原健介  
「レフェレンダムによる人権保障の可能性」 井口秀作  
「フランスにおける選挙制度と平等」 只野雅人  
「男女平等の進展と現状」 植野妙実子  
「フランスにおける宗教的少数者の宗教的自由」 小泉洋一  
「フランスにおけるインターネット規制」 村田尚紀  
「フランスにおける「良好な環境への権利」と環境  
法上の一般原則」 北村和生  
「フランスにおける外国人の人権」 光信一宏  
「フランスにおける「地域語」と人権」 長谷川秀樹  
「フランス労働法と労働者の権利保障」 川口美貴  
「フランス地域民主主義法制下における住民投票の  
位置」 中田晋自

15輯『グローバル化と現代国家—国家・社会・人権論の課題—』

中谷義和・安本典夫編 御茶の水書房 2002年



第一部グローバル化とパラダイムの変容

- I 「グローバル化と民主政の課題」 中谷義和
- II 「国際法における個人」 徳川信治
- III 「グローバル化、国家主権、人権保障、人道的介入」 堤功一
- IV 「ガバナンス論争の新展開」 堀雅晴

第二部グローバル化と国内法制の展開

- V 「グローバル化とタイ労働法の改革」 吉田美喜夫
- VI 「グローバル化と個人情報保護法制の課題」 米丸恒治
- VII 「EUとイギリス都市農村計画法制の展開」 安本典夫

第三部グローバル化と国民国家

- VIII 「北アイルランド紛争における「政治的暴力」とテロリズム」 南野泰義
- IX 「沖縄・スコットランド・ウェールズにおけるアイデンティティーと政治意識」 小堀眞裕
- X 「国民国家の変容とナショナル・アイデンティティ」 中谷猛

16輯『新しい公共性—そのフロンティア—』 山口定・佐藤春吉・中島茂樹・小関素明編  
有斐閣 2003年



- 序章「新しい公共性を求めて」 山口定
- 第1部 公共性論の新しい視角
- 第1章「H・アーレントと公共空間の思想」 佐藤春吉
- 第2章「家族・親密圏・公共性」 佐藤和夫
- 第3章「多文化主義から見た公共性問題」 西川長夫
- 第4章「多元的民主主義と公共性」 後藤玲子
- 第5章「分配的正義論」 立岩真也
- 第6章「歴史学と公共性論」 小関素明
- 第2部 公共性問題と政治経済学の新展開
- 第7章「公共事業の公共性」 宮本憲一
- 第8章「ガバナンスと「市民社会の公共化」」 篠田武司
- 第9章「国民国家を超える公共圏の可能性」 中村健吾
- 第3部 自治体・メディア・国際社会
- 第10章「戦後憲法体制と沖縄問題」 中富公一
- 第11章「自治体における公共空間」 富野暉一郎
- 第12章「公共性と市民的積極参加の制度デザイン」 村山皓
- 第13章「メディア政策と公共性」 ファン・ソンビン(黄盛彬)
- 第14章「放送メディアの公共性と市民アクセス」 津田正夫
- 第15章「途上国における「公共性」問題」 松下列

17輯『現代国家と市民社会—21世紀の公共性を求めて—』

山口定・中島茂樹・松葉正文・小関素明編著 ミネルヴァ書房2005年



序章 「市民社会」問題をアジア諸国の事例から見直す 山口定

第I部 日本近代主権と公権力

第1章 「近代日本における公権力・立憲制・ナショナリズム」 小関素明

第2章 「近代主権と立憲制」 頼原善徳

第3章 「近代日本の都市自治論の再生」 住友陽文

第II部 現代国家と公共性問題

第4章 「改憲イデオロギーと「公共性」問題」 中島茂樹

第5章 「中央省庁改革と国家行政組織の公共性」 晴山一穂

第6章 「教育改革と公共性」 竹内俊子

第7章 「社会保障行政における公共性問題」 本多滝夫

第III部 市民社会・市場と公共性問題

第8章 「国境を超える市民社会」 八木紀一郎

第9章 「市民社会と経済的不平等」 松葉正文

第10章 「公益事業における公共性」 小坂直人

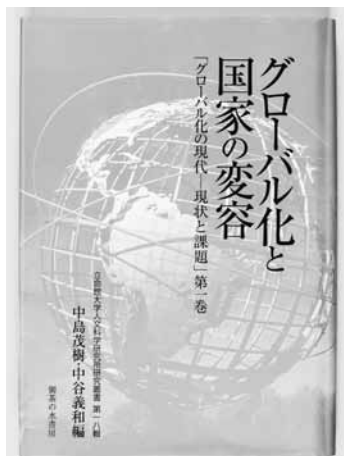
第11章 「初期トウルネン協会運動における社会参加と相互扶助」 有賀郁敏

第12章 「地域福祉とローカルガバナンス」 山本隆

第13章 「日本の地域財政改革と公共圏の再編」 森裕之

## 18輯『グローバル化と国家の変容—グローバル化の現代-現状と課題—』

第一巻 中島茂樹・中谷義和編 御茶の水書房 2009年



## 第一部グローバル化と国民国家

第一章「グローバル化の現代」 中谷義和

第二章「世界市場・国民型国家・政治秩序」

B・ジェソップ  
(中谷義和訳)

第三章「グローバル化と人権」 倉田玲

## 第二部グローバル化と現代法制

第四章「グローバル化と統治構造の変容」 中島茂樹

第五章「グローバル化と治安警察法制の変容」

渡名喜庸安

第六章「グローバル化と税制」 望月爾

第七章「グローバル化と環境規制」 西村智朗

第八章「グローバル化と文化財取引」 樋爪誠

第九章「グローバル化と労働規制」 吉田美喜夫

## 第三部グローバル化と民主的ガバナンス

第一〇章「グローバル民主政は可能か？」

マーティアス・ケーニッヒアーキブージ  
(中谷義和訳)

第十一章「グローバル化と国際法」 徳川信治

第十二章「グローバル化と国際機構」 比屋定泰治

第十三章「批判としてのモラル・エコノミー」

アンドリュウ・セイヤー  
(櫻井純理訳)

第十四章「グローバルな挑戦」 デヴィッド・ヘルド

(中谷義和訳)

第十五章「コスモポリタニズムのマニフェスト」

アンソニー・マッグルー  
(中谷義和訳)

19輯 『グローバル化とリージョナリズムーグローバル化の現代-現状と課題ー』

第二巻 篠田武司・西口清勝・松下冽編 御茶の水書房 2009年



第一部 グローバル化の理論と動態

第一章「グローバル化とポスト・フォードイズム」  
篠田武司

第二章「資本の諸空間」  
J・ヒルシュ/J・カナンクラム  
(中谷義和訳)

第三章「経済のグローバル化と国際機構」 一井昭

第四章「現代帝国主義論とEU」 中村健吾

第五章「福祉国家の新展開」 山本隆

第六章「グローバル市民社会と世界秩序」 高嶋正晴

第二部 リージョナリズムの理論と現状

第七章「グローバル化とリージョナリズム」 松下冽

第八章「欧州統合とユーロリージョン」 田中宏

第九章「東アジアのリージョナリズム」 西口清勝

第一〇章「東アジアにおける移行国家とリージョナリズム」  
小山昌久

第一一章「中東におけるリージョナリズム」  
末近浩太

第三部 リージョナリズムの動態

第一二章「発展途上国の産業技術の発展と地域産業集積」  
田中祐二

第一三章「華人ネットワークの変容」 小木裕文

第一四章「リージョナリズムと移民問題」 石井由香

第一五章「グローバリズム、リージョナリズム、ローカリズム」  
山下範久